

汐見小学校放課後オアシス事業検証委員会  
( 検証結果まとめ )

平 成 2 1 年 2 月

汐見小学校放課後オアシス事業検証委員会

## 目次

	ページ
1 放課後オアシス事業の開設の経緯 . . . . .	1
2 放課後オアシス事業の現状 . . . . .	1
(1) 施設 . . . . .	1
(2) 事業の運営等 . . . . .	1
(3) 事業実施状況等 . . . . .	3
(4) アンケート調査の実施と結果 . . . . .	4
3 放課後オアシス事業の成果と課題の整理 . . . . .	7
4 放課後オアシス事業の総括と評価 . . . . .	10
5 放課後オアシス事業の今後の方向性 . . . . .	14
6 資料編	
(1) 汐見小学校で実施している事業一覧	
(2) 汐見小学校放課後オアシス事業・所要経費に関する資料	
(3) 汐見小学校放課後オアシス事業実施状況推移	
(4) 平成20年6月(1)学年別・日にち別利用状況、学年別登録状況	
(5) 平成20年6月(2)利用日数別、学年別利用人数	
(6) 汐見小学校放課後オアシスアンケート調査結果	
(7) 汐見小学校放課後オアシス事業検証委員会設置要綱	
(8) 汐見小学校放課後オアシス事業検証委員会委員名簿	
(9) 汐見小学校放課後オアシス事業検証委員会開催状況	

## 1 放課後オアシス事業の開設の経緯

放課後オアシス事業は、放課後の安全・安心な児童の居場所を提供するとともに、地域社会で子どもを育むことによって、開かれた学校を実現することを目的として、平成 18 年 9 月 25 日から、汐見小学校でモデル事業として開始した。

開設に当たっては、学校、PTA、町会等の十分な理解が必要なため、事前の説明、調整を経て、教育委員会の事業として汐見小学校の生活科室を拠点として校庭、体育館、屋上プレイヤードを使用して事業を開始した。

運営は、プロポーザル方式による業者選定を実施した結果、子どもの居場所づくりに実績があり、汐見小学校の地元である文京区千駄木に支部を置く特定非営利活動法人 Woodcraft 東京・文京に委託することに決定した。

オアシス「OASIS」とは

放課後の学校を面白い居場所として開放する（Open a school After school as an Interesting to Stay） 頭の文字をとって「OASIS」

また、「砂漠の中での休息地、慰めとなる場所」の意でもある。

## 2 放課後オアシス事業の現状

### (1) 施設

オアシス事業の使用施設は、生活科室を拠点に、校庭、体育館、屋上プレイヤードでスタートしたが、その後、図書室、ふれあいルームも使って事業を展開している。

汐見小学校の校舎は、L字型をしており、一端が子育てひろば、育成室になっており、安全確保のため校庭と廊下が見渡せるもう一端にある生活科室に放課後オアシス事業の拠点を配置している。

汐見小学校には、学校のほか、放課後、学校休業日、夜間等に放課後オアシス、育成室、こどもひろば、スポーツ交流ひろば、施設開放等様々な団体が主催し、物品等を管理して学校施設を使用している。各事業は、別紙資料（資料 No 1）のとおりである。

### (2) 事業の運営等

放課後オアシス事業は、教育委員会庶務課が所管し、事業の運営をNPO法人 Woodcraft 東京・文京に委託して実施している。

事業は、学校休業日を除く月曜日から金曜日までの午後 2 時から午後 5 時までを原則としている。

放課後オアシス事業を使用する児童は、オアシス事業への登録が必要であるが、登録対象児童は、汐見小学校及び汐見育成室に在籍する全児童としている。

汐見小学校の児童数は、200人前後で推移しており、校内併設の汐見育成室登録児童が40人強である。オアシス事業の登録は、全児童の80%を超えている。

指導員等の人員配置は、主任指導員、指導員、補助指導員を置くほか、児童の安全確保に十分な人数をもって運営することとしており、概ね、1日当たり7人から8人の人員を配置している。なお、地域ボランティアとの協力体制は、受託NPO法人の自主性に任せているが、汐見小学校の卒業生が補助指導員として参加していることもある。

汐見小学校放課後オアシス事業の基本は、児童の放課後の居場所の提供としての自由遊びであるが、独自のメニューを月1回以上提供することとしており、各種イベント、教室を実施し、希望する登録児童が講習を受けている。

イベント・教室としては、開設当初は、フットサル教室、囲碁教室、手芸教室、ダンス教室が実施されていたが、その後、囲碁教室が中止となり、新たにミュージカル教室が開始された。その他、20年度には、漢字検定教室、茶道教室を新たに始めている。また、フットサル教室は、平成20年度に、育成室児童も参加できるように実施単位・時間の見直しを行っている。

また、安全管理面では、生活科室のコンピュータで遠隔操作できる監視カメラを6台配備するほか、児童の入退室を把握するため、IDカードによるシステムを導入している。そのため、オアシス事業に登録している児童には、IDカードを交付し、入室、退室の際に児童各自がIDカードを読取機に当てることで、データを読み込ませている。

安全管理の点では、学校の校舎への入場には、インターフォンによる入場確認と電子錠による管理を行っているほか、オアシス事業を実施する箇所には、必ず指導員を配置するなど、円滑な事故対応の確保に努めている。

児童の安全管理のため、受託団体では、警備専門会社に依頼し、必要な人材を配置している。

汐見小学校、汐見育成室と放課後オアシス事業との円滑な実施の確保と学校現場のコミュニケーションを図るため、汐見小学校放課後オアシス運営連絡会をもっている。また、平成20年度には、現場での情報交換・確認のための学校、オアシス、育成室との話し合いの場をもっている。

同一施設を同じ時間帯で使用する育成室と放課後オアシス事業との間で事業実施、施設利用についての申し合わせをし、支障・混乱の生じないように努めている。

放課後オアシス事業実施に要する経費は、別添資料（資料 No 2）のとおりである。

登録児童については、自己負担（年間 500 円）でスポーツ安全保険に加入し、事故に備えている。

### （3）事業実施状況等

#### 平成 18 年度から平成 20 年度の事業実施状況の推移・傾向（資料 No 3）

##### ア 登録児童数、登録率、スタッフ配置の推移

オアシス事業は、平成 18 年 9 月 25 日から実施し、登録児童数、登録率は、次のとおりであり、先に記述したとおり毎年度、80%を超えている。

年度	登録児童数	登録率	備考
18	182	86.7%	年度末現在
19	175	83.3%	年度末現在
20	165	82.5%	20 年 5 月現在

また、1 日当たりの児童利用人数は、1 日平均で、約 40 人強、指導員等スタッフの配置人数は、1 日当たりで 7 人から 8 人となっている。

年度	開所日数	利用児童数		スタッフ数		備考
			1日当たり		1日当たり	
18	105	4,339	41.4	784	7.5	18 年 9 月～
19	173	7,308	42.3	1,375	8.0	
20	63	2,713	43.1	435	6.9	20 年 7 月まで

##### イ イベントの開催状況（資料 No 3）

放課後オアシス事業のイベント、教室は、フットサルを中心に、囲碁教室（20 年 7 月まで）、手芸教室、ダンス教室を概ね毎月 1 回以上実施しており、平成 20 年度には、ミュージカル教室、漢字検定教室、茶道教室を新たに開始している。

##### 平成 20 年 6 月の利用状況

児童のオアシス利用状況の詳細を把握するため、平成 20 年度 6 月の利用等のデータ分析してみると、次のとおりであった。

##### ア 学年別の児童登録、利用状況（資料 No 4）

平成 20 年 6 月の利用児童の学年別割合をみると、4 年生が最も高く 31.4%、次いで 1 年生の 21.0%、3 年生の 19.6%と続いている。

また、1 日当たりの利用児童数は、平均 39 人とこれまでと同様 40 人程度の人数となっている。

登録率は、85.0%と高い。

在籍児童に対する利用児童の割合は、全体で 19.5%、4 年生で 30.4%、1 年生で 29.8%、3 年生で 24.4%と 20%以上となっている。一方、高学年では、5 年生が 8.4%、6 年生で 7.6%と低くなっている。

#### 平成 20 年 6 月の利用実績

20 年 6 月	合 計	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	オアシス
利用児童数	835	175	109	164	262	67	40	18
学年別割合	100.0%	21.0%	13.1%	19.6%	31.4%	8.0%	4.8%	2.2%
1日当たり利用人数	39	8	5	8	12	3	2	
登録人数	170	24	35	29	39	31	12	
登録人数に対する 利用割合	22.9%	34.7%	14.8%	26.9%	32.0%	10.3%	15.9%	
在籍児童数	200	28	36	32	41	38	25	
在籍児童に対する 利用割合	19.5%	29.8%	14.4%	24.4%	30.4%	8.4%	7.6%	

\* 実施日数 21 日

\* 「オアシス」は、IDカードの携帯忘れ等で利用。

#### イ 月内の利用日数別、学年別利用状況（資料 No 5）

平成 20 年 6 月の利用日数別、学年別の児童利用状況をみると、週 1 回以下の利用児童は、利用児童全体の 40%、週 2 回以下では 63%、週 3 回以下の利用児童は、78%となる。残る 22%の児童は、平均週 3 回を超える利用であり、月内実施日数 21 日のうち、18 日以上の利用は、8%（9 人）となっている。

#### （4）アンケート調査の実施と結果（資料 No 6）

##### アンケート調査の実施概要

オアシス事業の開始以後、2 年間が経過し、事業の実態把握をし、放課後オアシス事業の検証と、放課後における子どもの居場所についての検討の参考とするため、平成 20 年 10 月 1 日から 15 日までの間、汐見小学校放課後オアシスアンケート調査を実施した。

対象は、オアシス事業の登録・利用を問わず、汐見小学校在籍児童及び保護者とした。

配布は、199 件で、回収は 105 件であった。（回収率 52.5%）

##### アンケート調査の実施結果

#### ア 週当たり、月当たりの利用回数

週当たりの利用回数は、1回が16%、2回が23%、3回が23%、4回が26%、5回が8%であった。月当たりで回答した方は、4回以下が76%、5回以上は10%であった。

#### **イ 塾、習い事の状況**

塾や習い事に行っている児童は、週1回から3回までが72%であった。6回・7回では、3%の回答であった。

また、5年生では100%、6年生では92%が塾通い・習い事をしていると回答している。

#### **ウ オアシスへの登録の有無**

オアシスへの登録は、93%が登録している。登録していない理由としては、「育成室に行っている」「塾や習い事で忙しい」「ゲーム等学校でできない遊びをしたい」などの回答があった。

#### **エ オアシスを利用しない日の放課後の居場所**

オアシスを利用しない日等の児童の主な居場所は、自宅が半数以上の56%。次いで友人宅23%、習い事の教室22%、育成室21%となっている。

#### **オ 放課後オアシスの感想**

オアシスを利用して児童はどのように感じているかを聞いたところ、「とても楽しい」「楽しい」で86%と利用による満足度が高い結果となった。「楽しくない」と回答した6%の理由としては、「本人に合わない」「フットサルでボールが回ってこない」「子どもが嫌がる指導をする」などであった。

#### **カ 楽しいと感じている理由**

オアシスを利用して「楽しい」と感じている理由として、「学校のいろいろな施設を使って遊べる」及び「オアシスでフットサル、ダンス、ミュージカル、手芸などが習える」がそれぞれ34.7%で、「さまざまな指導員、地域の方々と遊べる」が27.6%、「異年齢の子どもと遊べる」が25.5%の順になっている。

#### **キ オアシスでの宿題等勉強の状況**

オアシスでの宿題等の勉強については、「することが多い」「たまにする」で48%、「しない」で48%と同率であった。

#### **ク オアシス利用後の児童の変化**

オアシスを利用するようになっての子どもの変化について聞いたところ「変わらない」が32.6%と最も多かったが、「友達と遊ぶようになった」32.6%、「体力がついてきた」19.4%など、変化を感じる保護者も少なくなかった。

#### **ケ 防犯カメラ、ID入退室管理システムの感想**

オアシス事業のために設置してある防犯カメラ、ID入退室管理システムについて聞いたところ、「絶対に必要」「あった方がよい」が、いずれも97%程度であった。

## コ オアシスの開設時間帯

オアシスの開設時間帯(午後2時から午後5時まで)について、「適当」との回答が80%と高かった。また、「もう少し時間延長したほうがよい」に16%の回答があった。

延長の理由としては、「仕事で遅くなることもある」「育成室と同じに」「働いているから」等の回答があった。

## サ イベント・教室の参加

フットサル、ダンス、手芸、ミュージカル等のイベント、教室への参加については、「参加しない」と回答した児童は、いずれも50%以上である。

参加しない主な理由としては、「興味がない」「女の子が多く、男子が入るのは恥ずかしい」「他学年と一緒に力量が及ばない」「参加してもつまらない」などであった。

## シ 長期休業中の児童の居場所

夏休み等の長期休業中の児童の主な居場所については、「自宅」が64%、「友人宅」及び「育成室」でそれぞれ23%、次いで「習い事の教室」で12%、「塾」が11%であった。

## ス 保護者の事業運営参加

地域人材の事業運営への参加として保護者について協力いただけるか聞いたところ、「積極的に参加したい」は、4%と低かったが、「時間のあるときに協力したい」が61%であった。一方で、「忙しいので協力できない」は35%あった。

## セ その他意見

その他、自由意見が34人の方から寄せられた。

事業運営に対する意見としては、オアシス事業を高く評価する意見、トラブルや怪我への適切な対応を求める意見があった。

事業の実施時期・時間に対する意見としては、夏休み等の休業中にも開設を望む意見、時間延長を望む意見があった。

イベント、教室に対する意見としては、参加して喜んでいる意見であった。

指導員等スタッフに対する意見としては、指導員の質の向上を求める意見の一方で、指導員の対応への感謝の意見があった。

### 3 放課後オアシス事業の成果と課題の整理

これまでの放課後オアシス事業の現状と実施状況等を踏まえ、オアシス事業の運営体制、活動内容、活動期間、コスト面について成果と課題を整理すると次のとおりである。

#### (1) 運営体制について

##### (成 果)

オアシス事業として、学校施設のうち生活科室、体育館、屋上プレイヤード、校庭等幅広く施設を活用でき、事業運営しやすい環境にある。

オアシス、学校、育成室と3者が同一施設でそれぞれの活動を実施しているが、校舎内でのオアシス、育成室は、比較的それぞれ独立した運営がしやすい配置となっている。

学校の休業日には、こども広場、スポーツ交流ひろば等の(財)文京アカデミーの事業が実施されており、学校施設が有効に活用され、子どもが様々なサービスを楽しむ環境にある。

監視カメラとは別に、校内のオアシス事業実施場所には、スタッフを配置することとして、安全管理を図っている。

登録児童の生活科室の入退室の管理をIDカードシステムで行っている。入室・退室の際のIDカードによるデータ登録(機械への読取り)は、児童が自主的に行っているが、保護者からの児童の利用の有無の問い合わせに、迅速に対応できる。

地域に支部をおくNPO法人が事業受託していることで、地域との関係を持ちやすい事業運営が期待できる。

汐見小学校卒業生がスタッフとして参加するなど、ボランティア、地域人材を活用した運営が行われている。

##### (課 題)

施設利用、用具利用、学校管理上のルール等3者間の日常的な連絡調整・コーディネートを確保する体制が定型化していない。

低学年と高学年の授業の終了時間が異なるため、オアシス事業の実施には工夫が求められる。

指導員は、主として学生ボランティアであり、入れ替わりがあるので、保護者からの苦情もある。

地域人材、保護者等の運営参画が十分でない。

遊具等の管理が学校、育成室、(財)文京アカデミー等輻輳しており、オアシス事業利用児童が遊びたい遊具があっても、利用できない状況がある。

新入生の登録事務は、教育委員会事務局職員が汐見小学校に出張して受け付

けており、効率的な事務執行を検討する必要がある。

遊び場ごとにスタッフを配置し、児童の遊びの状況を見守っており、監視カメラの有効性について経費の点からも再検討する必要がある。

IDカードの作成、システム維持に経費を要することから、入退室について別途の方法について再検討をする必要がある。

教室・事業を拡大するとスタッフの配置とそのための経費が必要になり、事業拡大が難しい。

事故対応は、学校、育成室、オアシスの個別の対応となっており、相互の連絡体制が十分に確立していない。ケースによっては、学校に負担がかかることもある。また、標準的な事故処理マニュアルを備える必要がある。

## (2) 活動内容について

### (成 果)

オアシス事業への登録は、全児童の 85%と、全児童にオアシス事業が周知され、汐見小学校で定着した事業となっている。

学校施設での遊び、学びのほか、希望児童に対してフットサル、ダンス、ミュージカル、手芸等の教室を実施しており、多様なメニューと充実した内容の教室が揃っており、本格的な指導を受けることができる。教室参加児童には、実費相当額の自己負担をお願いし、参加の有無の公平性を図っている。オアシスを利用することを「楽しい」と感じている児童が、85%とオアシス事業に対する児童の評価は高い。

オアシスを利用した児童への効果としては、「変わらない」と感じている保護者が 33%あるものの、「友達と遊ぶようになった」が 32%、「体力がついてき」たが 19%、「明るく活発になった」が 17%と事業効果を感じている保護者がおり、一定程度の効果は上がっている。

オアシスで「宿題等の勉強をすることが多い」児童は、9%で、「たまにする」を合わせると 47%で、「宿題等をしない」児童と同じ割合となっているが、「学びの場」としてのオアシスの効果もみられる。

児童に広く利用されている一方で 1 / 4 の児童がほぼ毎日利用しており、多様な利用意向に応えられている。(20 年 6 月の実績によると、利用児童 110 人中、週 1 回程度(月 1 日~4 日)利用は、40%、週 2 回程度の利用(月 5 日~8 日)は、23%と、週 2 回程度以内の利用が 63%となっており、1 日平均 40 人前後が利用している状況から広く利用されているが、一方で週 4 回程度以上(月 13 日~20 日)の利用は、22%と、利用児童の約 1 / 4 の児童がかなりの頻度で利用している。)

### **(課 題)**

低学年に比べ、高学年の利用が少なくなっている。(20年6月で、5年生は、在籍児童の8.4%(1日あたり3人)、6年生は、同7.6%(1日あたり2人)となっている。)

フットサル等の各種教室に参加しない児童が多い。また、女子児童向けの教室が多いため、男子児童が参加しにくい意見がある。

オアシス事業でのイベント、教室の拡大は、指導員の配置を要するため、委託経費の増額に結びつくなど事業の展開に限界がある。

夏期休業中に委託NPO法人の自主事業(フットサル等)も実施しているが、区教委の事業か法人の事業か明確に周知する必要がある。

### **(3) 活動期間について**

#### **(成 果)**

オアシスの利用時間帯は、午後2時から5時までの平日の放課後であるが、アンケート結果では、81%の保護者が「適当」との回答があり、オアシス開設時間について多くの賛同があった。

### **(課 題)**

利用時間帯の延長、長期休業日実施の要望があるが経費、スタッフの確保等対応に課題がある。(アンケート結果では、16%(16人)が利用延長を望んでいる。)

### **(4) コスト面について**

#### **(成 果)**

学生ボランティアや卒業生の参加、安全管理員の配置等について、委託費用の増額とならにように配慮した事業運営が行われている。

### **(課 題)**

事業運営委託費は、平成20年度で年間約830万円、入退室管理システムは、導入で約200万円、保守費用で年間約30万円、ICカード作成で1枚あたり2000円以上の経費がかかる。また、監視カメラの保守は年間30万円を要するなど、運営経費に1千万円程度を要する。

区の財政的な負担を勘案すると、イベント、教室等の参加について一部利用者本人負担の考えを検討することも課題である。

#### 4 放課後オアシス事業の総括と評価

これまで整理した成果と課題を踏まえた放課後オアシス事業の総括と評価については、次のとおりである。

##### (1) 運営体制について

###### イベント、教室の運営体制

汐見小学校でのNPO法人への運営委託の効果として、遊び場、学びの場の運営だけでなく、フットサル、ダンス等のイベント・教室の実施に結び付ける弾力的な発想と地域人材に限らずNPO法人のもつ多様な人的コネクションで高いレベルの指導の確保に加え、様々な事業展開が期待できる。さらに、イベント等への参加を通じて各種の技術を身に付けることができ、子どもへの効果が大きいものにとらえ、NPO法人のイベント等の実施体制について評価できる。

###### 学校、育成室等との連携

- ア オアシス、学校、育成室の3者間で連携を取りながらそれぞれの事業を実施しており、運営上の大きな支障は生じていないが、連携体制の定型化については、今後も話し合いを継続していくことが必要である。
- イ 汐見小学校では、学校以外にも、オアシス、育成室、こども広場、スポーツ交流ひろば等様々な団体が学校施設を利用しており、遊具等物品の共有化は効率性の観点からは望ましいが、それぞれの責任で事業を実施し、事業実施に必要な物品を管理していることから、管理・利用の一元化は、難しいと思われる。まずは団体相互で話し合い、決まりごとをつくるなど、学校施設の活用状況について共通理解をし、子どもへの影響が少ないように運営していくことが重要である。
- ウ 低学年と高学年の授業の終了時間が異なるなどオアシス事業の実施に制約があるのは、目的、性質の異なる事業を同一施設内で実施しているので、やむを得ない。限られた条件の中で相互理解を深め、それを踏まえた事業運営に努力することが重要である。また、他人に対する配慮の気持ちを育むよい経験にもなる。

###### 指導員、ボランティア等

- ア ボランティア指導員の入れ替えがあることは、指導の継続性、安定性の点で課題であるが、現在も行われている事前の打ち合わせを継続していくことで共通認識を強化していくことで対応していくことが必要である。一方で、子どもたちが多くの大人と接触し、交流する機会としてみれば、ボランティア指導員の入れ替えは、この事業による成果でもある。
- イ アンケート結果には、保護者から指導員の言動に対する苦情がいくつかあるが、こうした声には、適切に対応し、指導員への指導等、改善を

していく必要がある。一方で、オアシスに参加する子どもにとって、指導員等の大人に注目してもらいたいという気持ちから、学校、家庭では示さない言葉遣い、態度をすることもある。それは、指導員と子どもとが近い距離間を持って接している結果であり、とりわけ年齢層が子どもと近いボランティア指導員が子供にとって経験を共有でき、人間関係のバランスをとるための良い位置づけになっており、評価できる。なお、指導員の言動については、保護者に対して理解を求めていくことも大切である。

ウ ボランティア指導員については、NPO法人、教育委員会との関係、位置づけや人材の募集などスタッフ体制が分かりにくい。オアシスでは、様々な大人と接することができ、子どもの人間としての幅が広がっていき良い機会となるので、スタッフ体制については、保護者に周知していくことが必要である。

### **監視カメラ**

監視カメラについては、部外者の侵入に関する対策として使用することで効果があがるものであるが、汐見小学校では学校の出入り口の電子オートロック、インターフォンでの外部者の入校確認が厳重になされている。また、子どもの安全は、実際の目で見守ることが必要であり、オアシス事業で使用する場所には指導員等を必ず配置することとしており、監視カメラに頼らずに事故への迅速な対応が可能な体制が取られている。さらに、NPO法人では、安全管理員を配置し、子どもの安全確保に当たっている。監視カメラは、現在、子どもの所在確認に活用されているが、そのためならば別の方法も考えられる。校内の教室の配置や校舎内の死角への安全対応という学校管理上の点は別として、オアシス事業運営のために設置する監視カメラについては、試験的に設置したものであるが、維持経費を要することもあり、子どもの所在確認については別途の方法を検討し、学校における安全対策を踏まえ、オアシス事業の効率化を図るよう見直しをする必要がある。

### **IDカードによる入退室管理システム**

IDカードによる電子入退室管理システムは、登録、利用状況データ分析に有効であるが、日常的には、保護者からの問い合わせへの対応として活用されている。区の児童館や他自治体では、入退室管理として簡易なアナログ方式で行っている。IDカード方式の場合には、読取り機器の維持経費のほか、IDカード作成経費も必要とする。汐見小学校児童のオアシス利用は、保護者にとって定着しており、現状の利用規模であったならば電子システムに頼らない簡易な登録、利用方法でも利用児童の把握が可能と

考える。IDカードによる入退室管理システムは、モデル事業としてデータ把握の上では有効であったが、今後については、簡易アナログ方式も含め見直す必要がある。

#### **オアシス事業での事故への対応**

- ア 学校内での児童の事故対応については、学校、オアシス、育成室それぞれが責任を持って対応し、事業主体ごとに完結していることが重要である。
- イ オアシス事業での児童事故等への対応は、校内で発生した事故等であることから、事業責任とは別に学校の対応を切り離すことは難しい。そこで、事故対応に関する学校の負担を軽減し、適切かつ円滑に処理していくには、学校、育成室との関係を踏まえたオアシス事業での事故対応マニュアルを作成し、学校、オアシス事業、育成室との連携と役割の明確化を図っていく必要がある。特に、学校とは、十分な事前調整が必要である。

## **(2) 活動内容について**

### **オアシスの利用状況**

- ア 登録児童は、85%と高いが、利用児童の多くは、週1回から2回のオアシス利用である。各児童が多様な居場所を上手く使い分け、組み合わせ活用している結果であり、子どもの自主性を育てる点から評価できる結果ととらえられる。
- イ 特定児童の利用が固定化している点は、保護者の就労等によってオアシス利用が頻繁になっているものと考えられる。オアシス事業に児童の居場所が固定化していくことは、自由な放課後の遊び場としての趣旨から課題でもあるが、働いている親からの安心、安全な居場所として評価されているととらえることもできる。
- ウ 高学年のオアシス事業利用の児童が少ない傾向は、塾、習い事、受験勉強等で忙しくなることもその原因のひとつと考えられるが、オアシス事業の開始時に高学年の児童は、別の遊び場があったので、オアシス事業の利用率が低かった。低学年であった児童が進級し、高学年になると、それまでオアシス事業に慣れ親しんでいるので、高学年の利用率が高くなることが推測される。高学年の利用については、あと1、2年先の利用率を見ないと評価できない。

### **オアシス事業のイベント、教室等**

- ア オアシスのイベント、教室は、基本事業のオプションとみるべきであり、その拡大の可否は、経費面での制約があるものの、基本的には

NPO法人の調整力に任せることになる。汐見小学校では、NPO法人の調整力等で、子どもたちが喜ぶイベント、教室の実施ができ、高い評価を得ている。

イ オアシス事業のイベント、教室の児童参加状況は、現在は、手芸、ダンス、ミュージカル等女子への偏りがみられるが、そもそもイベント等は、オプション事業とみるべきであり、種目は、受託したNPO法人が実施可能な範囲で企画しているので、やむを得ないものと受け止める。イベントの広がり、NPO法人の力量に頼らざるを得ないが、汐見小学校のオアシスでは、高いレベルのイベント、教室が実施されており、参加児童への効果は、高く評価できる。

ウ オアシス事業の中で新たに始めた漢字検定教室、茶道教室の取組みは、学校関係者評価で良い評価をされている。さらに、漢字検定教室の実施結果として、汐見小学校が検定会場になり、第八中学校の生徒も汐見小学校で受検できるなど、この事業の効果が周辺の子どもたちへも及び、評価できる。

エ 学びの場としてのオアシス事業の拡大は、委託経費増額に跳ね返るとともに、他校との格差が広がる恐れがある。しかし、ボランティア等を活用した漢字検定、茶道等の学びの場の拡大は、学校関係者評価で良好な評価を得ている。今後、教員の負担軽減という観点から学びの場の拡大に取り組んでいくには、放課後対策から学校支援地域本部を活用した事業に切り替えていくことも視野に入れて検討する必要がある。

### (3) 活動期間について

#### オアシス事業の実施時間帯

ア オアシス事業は、放課後対策として実施しており、児童が一人で帰宅できることを前提として考えると、安全上の観点から開設時間は、現状の2時から5時までの時間帯を基本とすることが適切と考える。特に、冬季は、5時には暗くなることも配慮する必要がある。

イ オアシス事業の時間延長を望む声はあるが、事業の基軸を子育て対策にすえての検討が必要であり、放課後対策と区別して整理する必要がある。

#### 長期休業期間の実施

ア 長期休業のうち特に夏休みは、学校でのプール指導や学校行事、地域でのイベント等があり、家族で触れ合う時間が少なくなっている。長期休業では、児童が家庭、地域を拠点とし、そこで過ごすことも児童にとって重要であり、保護者、家庭の事情によりニーズが異なるが、

現状では、放課後対策の延長として長期休業中にオアシス事業を実施する必要性は、高くないと思われる。

イ 一方で、長期休業中のオアシス事業を実施する場合には、使用教室の冷房化等のハード面での整備、スタッフの人的配置の確保等運営面での整備に、なお課題がある。

#### (4) コスト面について

##### **基本事業の運営経費とイベント等の経費**

受託しているNPO法人は、運営経費が増額しないよう、警備員の配置、ボランティア指導員、汐見小学校卒業生の活用等運営面で創意工夫をしており、事業内容のレベルの維持に努めていることは、評価できる。今後、事業運営に当たっては、自由な遊び場、学びの場としての基本的な事業運営経費とオプション事業としてのイベント、教室の経費を整理し、運営経費の精査、見直しをしていくことが必要である。

##### **放課後オアシス事業の安全対策経費**

監視カメラ、IDカード管理のほか安全管理員の配置、指導員の実施箇所への配置、電子錠、インターフォンによる校内入場チェック等、安全に関しては、様々な形で対応されており、そのための経費をかけている。そうした対応全体の中で、別途の方法を含め、監視カメラ、IDカード管理システムの見直しを行い、経費の効率化を図っていくことが重要である。

##### **一部利用者負担の考え方**

放課後オアシス事業の一定レベルでの事業運営を継続、発展させていくためには、一部利用者負担の考えの導入について、今後、課題を整理し、検討する余地がある。その検討に当たっては、放課後オアシスでフットサル等の特別な指導を受ける場合に限るなど対象を整理するとともに、どの児童も気軽に参加できるよう負担額の妥当性について十分に配慮することが必要である。

##### **国、東京都の補助金の確保**

放課後オアシス事業の運営経費については、区の財政負担を軽減するため、国、東京都の補助金の確保に努力すること。

#### **5 放課後オアシス事業の今後の方向性**

放課後オアシス事業について、以上のとおり汐見小学校でのモデル事業について検証し、総括及び評価をした結果を踏まえ、次のとおり今後の放課後オアシス事業の方向性を示す。

##### **(1) 汐見小学校放課後オアシス事業の方向性**

##### **汐見小学校放課後オアシス事業の今後**

汐見小学校の放課後オアシス事業は、基本事業としての遊び、学びの場の提供だけでなく、NPO法人の調整力により高いレベルのオプション事業（フットサル、ダンス等）が実施されていることが特徴であり、これまでの事業実績に対する児童、保護者からの評価が高い。また育成室とも相互の事業を尊重し、共存しながらオアシス事業の成果を挙げている。しかしながら、事業運営については、地域ボランティアの協力のさらなる拡大、事業運営に必要な設備、イベント・教室のオプション事業等、コスト面も含めて見直しを行い一層の効率化を図っていくことが必要である。汐見小学校における放課後オアシス事業については、学校施設を使った地元NPO法人の事業運営による放課後の安全な居場所づくりのリーディングケースとして、今後の事業運営の見直しと事業の効果をみながら、当分の間、継続していくことが望ましい。

#### **監視カメラ、IDカード入退室管理システム等運営経費の見直し**

事業を継続するに当たって、監視カメラ及びIDカード管理システムについては、効果の点で課題があり、より効率的な他の方法に見直すとともに、NPO法人へ委託している事業運営経費についても、基本的事業とオプション事業とを整理した上で、内容、事業の運営方法等についても精査し、事業の効率的な運用を図っていくことが必要である。

#### **国、東京都の補助事業の活用及び受益者負担の検討**

放課後オアシス事業運営経費については、国や東京都の補助事業の活用に努めるほか、事業を継続実施する過程で、オプション事業等に参加する場合の一部受益者負担の考え方について検討していくことは、今後の重要な課題である。

### **(2) 放課後オアシス事業の他校への展開**

放課後オアシス事業の他校への展開は、各学校において、事業の運営主体の存在やその調整力、学校施設の状況、地域人材の確保、コスト面等の各課題を考慮する必要がある。今回の汐見小学校放課後オアシス事業の検証結果をもって方向性を示すことは難しいものとする。

また、文京区の放課後の居場所対策は、汐見小学校放課後オアシス事業のほか、育成室、児童館、学校の放課後遊び、図書館の利用、PTA・地域による自主的な放課後対策活動等様々な形で行われている状況にある。

したがって、放課後オアシス事業を含めた放課後の居場所対策については、平成21年度に予定されている「子育て支援計画」の改定において、総体的な視点から、さらに検討していくことが適当である。